

〈令和六年度福岡県高等学校書道教育研究部会北部地区研修会報告〉

篆刻についての講演・演習

若松高校 岡部 桂子

一日 時 令和六年八月二十一日（水）

二 会 場 福岡県立稲築志耕館高等学校 書道教室

三 講 師 矢野 弘文先生（福岡県立嘉穂東高等学校非常勤講師）

四 報 告

会場には、矢野先生が台車いっぱい品物を載せてきてくださった。大きな箱から様々な印材や篆刻作品を取り出してはご説明くださり、大変華やかな展示会場となった。五皿程度の面に四文字が刻されている作品から、手の平より大きな印材にダイナミックに表現されたものまで様々あった他、中村蘭台初世の印影や矢野先生の著書など多数拝見し、刺激を受けた。「何か、面白い授業ができないかと思って、店舗を回ると楽しいですね」と、文化祭の展示に役立つ教材もご教授くださり、先生の制作への探求心に大変感銘を受けた。

参加者は事前に各自で作成した印稿（はがきに筆で作成。印のサイズは八分。朱文、白文どちらでも可）を持参し、印稿の添削から作業が始まった。大変丁寧に添削してくださり、なるほどそうかと添削するポイントを学習でき、他の先生方の作品を鑑賞できる大変貴重な時間となった。

中には、印稿を何種類も考えてこられた先生もおり、互いに意見を交わしながら、有意義な時間を過ごすことができた。

印刀は矢野先生にご用意いただいたのだが、全てに大変手入れが行き届いており「印刀の彫り味に感動し、早速印刀の手入れをしました」といった感想も寄せられた。

奏刀の心地よい音が響く中、先生の「いい音がしていますね！素晴らしいです。うまくいっている時の音です！」とおっしゃる笑顔が印象的だった。閉会後も、参加された先生方は名残惜しい様子で、「専門的な技法を直接拝見でき、大変希少な経験となった」「貴重な書籍や印を拝見させていただいて、とても興味深かった。プラスチックでできた教材用の印刀作ろうと思う」「篆刻の授業に臨む準備や指導のコツなど、今更聞けない初歩的なことにもお答えいただき、嬉しかった。特に撃辺の指導方法や布字の方法について多くの学びがあった。」「半日ではなく、一日研修にして頂きたい」といった感想が寄せられた。

結びに、矢野先生をはじめ開催にご協力いただいた全ての先生方に感謝し、ご報告とする。

